

銚子市漁協女性部の活動

銚子市漁業協同組合女性部
部長 金野 勝江

1 地域の概要

私たちの住む銚子市は、東京から約100Km、関東平野の最北端にある。

温暖な気候、豊富な資源に恵まれ、古くから栄え、昭和8年に千葉県で2番目の市として誕生し、現在も、キャベツ、平成15年、16年に水揚げ高全国第1位となった銚子魚市場、醤油などで全国有数の農漁業・商業都市として知られている。

2 漁業の概要

銚子市の沖合いは、全国有数の好漁場である。特定第3種漁港である銚子市漁港には、まき網、沖合底曳網、さんま棒受け網などの県内外の大型漁船及び小型底曳網、延縄、刺網、釣などの地元の小型漁船などにより年間を通じ、様々な魚が水揚げされている。

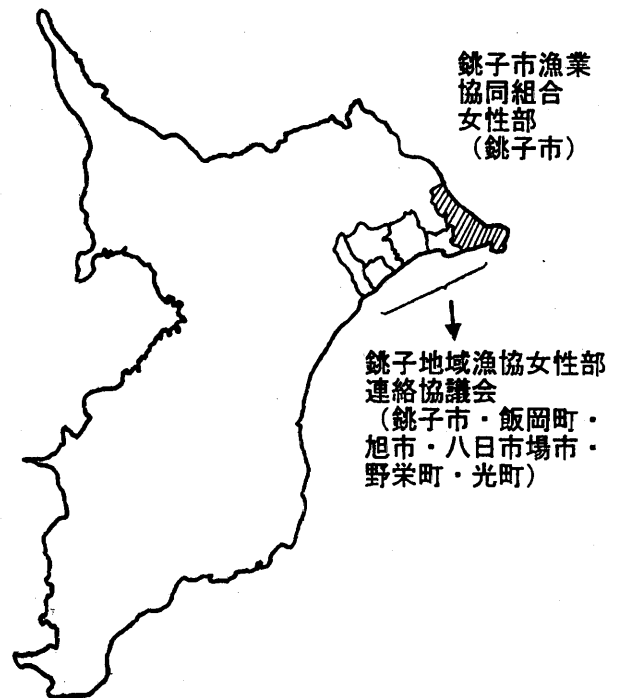


図1 地域図

3 研究グループの組織と運営

銚子市漁業協同組合女性部は、平成8年に銚子市内の6漁協が合併したことに伴い、それまで単一漁協ごとに組織されていた婦人部を統合し、平成9年に組織した。

平成15年度における組織の概要は表1のとおりである。

部員数は134名で、会長、副会長2名、役員6名、監事2名が中心となって、活動している。

また、当女性部が推薦し認定を受けた女性漁業士3名、お魚普及員13名、食育ボランティア4名が、女性部として、また、個人として活動している。

表1 組織の概要

地区名	部員数	役員数
銚子地区	11	2
外川地区	79	5
黒生地区	21	1
小底地区	13	2
西地区	10	1
計	134	11

また、さらに広域的な活動組織としては、隣接する海匠漁業協同組合の女性部とともに、銚子地区漁協女性部連絡協議会を組織し、女性部活動や魚食普及活動などに、ともに取り組んでいる。

4 研究・実践活動取組課題選定の動機

私たちの漁業を取り巻く情勢は、漁場環境の悪化に伴う漁獲量の減少、後継者不足等依然として厳しい上、長びく景気の低迷を受け、漁家の経営は一層深刻な状況にある。

こうした中で、私たち漁協女性部は、地域の活性化を一層図るため、関係団体相互の連帯を密にし、

- (1) 関係機関、地域女性団体との連携・交流及び男女共同参画実現に向けての努力を通じ、組織づくりと活動の活性化
- (2) 交流会・研修会の開催や各地域で開催されるイベントでの魚料理の実演、販売などを通じての魚食普及活動の推進
- (3) 貯蓄・共済推進活動、組合諸行事などの組合事業への参加・協力を3本の柱とし、種々の活動に取り組んでいるところである。

5 研究・実践活動の状況及び成果

平成15年度及び平成16年度の活動状況は、表2のとおりである。

主なイベントや会議の開催・参加は、平成15年度では、年間22日であるが、これらの準備等に要した時間を加えると、主にこれらの活動を中心的に支える役員等の活動は相当な時間に及ぶものと考えられる。

また、内容としては、魚食普及や地域奉仕に係るものが11日、県が推進する男女共同参画に係るものが4日、総会やその他の会議・研修会に係るものが7日となっているが、この他にも、表中には含まれていないが、JF共済の加入推進や貯蓄推進運動などに携わっている。

近年の活動の特徴としては、

- (1) 男女共同参画にかかわる活動が増加していること。
- (2) これまで、主に地区内で独自に実施してきた魚食普及活動についても、依頼を受けて、他地区に出て実施するものが増えており、当女性部の活動が次第に広域化していること。
- (3) 当女性部の主要な活動である魚食普及活動については、食育の観点から次世代を担う子供を対象とした活動に力を注いでいること。

という点があげられる。

表2 女性部の活動状況

(平成15年度)

年月日	内 容	場所等
平成15年5月27日	銚子地区漁協女性部連絡協議会総会	銚子市漁業協同組合
6月17日	銚子市漁協女性部総会	銚子市漁業協同組合
6月18日	JF千葉県女性連総会	千葉県水産会館
7月2日	千葉県協同組合女性交流会	ホテルグリーンタワー幕張
7月10日	魚食普及(県立松戸国際高校主催料理教室派遣)	県立松戸国際高校
7月20日	キンメダイ祭り	銚子市マリーナ
7月24日	農村いきいきフォーラム	ぱるるプラザ千葉
8月2日	やっぺ祭り	銚子市内
8月26日	魚食普及(生協ちばコープ主催料理研修会派遣)	市原市
9月17日	農山漁村女性社会参画研修会	ぱるるプラザ千葉
10月3日	「いわしの日」フェスティバル	銚子市民ホール
10月4日	市民バザー	銚子市体育館
10月22日	千葉県漁協女性部幹部研修会	館山市
10月26日	銚子市産業祭り	銚子マリーナ
11月16日	すこやか遊びフェスティバル	横浜こどもの国
12月20日	千人塚清掃	千人塚
平成16年1月15日	慰問	長崎園
1月24日	新年会	一山いけす
3月13日	水産物産地市場研修会	銚子水産事務所
3月17日	男女共同参画基礎講座	銚子市青少年文化会館
3月22日	施餓鬼	千人塚
3月25日	「知事と語ろう!明日の農林水産業」意見交換会	県立旭農業高校

(平成16年度)

	銚子市漁協女性部総会	
平成16年5月25日	銚子地区漁協女性部連絡協議会総会	銚子市漁業協同組合
7月18日	キンメダイ祭り	銚子マリーナ
8月7日	やっぺ祭り	銚子市内
9月3日	「知事と語ろう!明日の漁業」意見交換会	銚子市民センター
9月14日	千葉県立千葉壘学校生干物づくり体験教室	銚子市漁業協同組合
9月16日	全国女性漁業者グループリーダー研究集会	宮城県松島
10月6日	男女共同参画推進地域交流会	銚子市民センター
10月26日	銚子市産業祭り用さんま佃煮製造	銚子市漁業協同組合
11月4日	漁協女性部幹部研修会	勝浦市
11月14日	すこやか遊びフェスティバル	横浜こどもの国

このうち、男女共同参画については、これまでのところ、県や市の実施する会議やフォーラムに出席することが活動の主体であるが、同じ第1次産業でありながら、家事に加えて、男性と同じような作業を行う農家の女性と、男性は沖に出て漁をし、女性はその水揚げや経理を行うといった作業分担が明確になっている漁家の女性の違いを感じさせられることも多い。

しかしながら、漁業自体が天候に左右され、決まった休みがとりにくいなかで、漁家女性の社会参画はむずかしいことも事実であり、今後は、女性部活動が「自分の都合の良い時間にあわせて漁家女性が社会参画できる場」となるように取り組んでいきたいと考えている。

また、魚食普及活動であるが、特に、一般の家庭において、献立をきめる上で、子供の好き嫌いは大きな要素となるので、子供を対象に魚食普及を行い、子供に魚好きになってもらうことは、極めて重要であると考えられる。

平成16年度に実施した魚食普及活動で、子供を対象に実施した事業の状況について、次に紹介する。

写真1は、9月14日に千葉県立聾学校の生徒を対象に、干物づくり体験教室を実施したときの写真である。

このときは、「アジ」を素材にして、私たちも水産研究センターから教わったばかりの「魚醤入りの塩水をスプレーする方法」で開きをつくった。

生徒の中には、魚に触れるのが初めてという子供もいて、最初は皆恐る恐る魚に触れていたが、次第に慣れてくると皆楽しく開きづくりに取り組んだ。



写真1 干物づくり体験教室



写真2 こどもの国すこやか遊びフェスティバル(1)

写真2及び3は、11月14日に、こどもの国(横浜市)で開催されたすこやか遊びフェスティバルにおいて、イワシつみれ汁の無料配布を行ったときのものである。

このイベントへの参加は、平成15年に当施設の運営主体の「こどもの国協会」から、依頼を受けて参加したことが始まりで、今年で2年目である。

当日は、曇天で肌寒い、あいにくの天候で、入場者数も少なかったが、それでも、正午から午後2時までの2時間の間に約1500食分を無料配布した。

お客さんは、子供を含めた家族連れが主体で、つみれ汁を食しての反応も、「温かくておいしい」、「普段、魚を食べない子供が食べてくれて」と大変好評であった。

また、帰り際に、「好評なので是非来年もお願いします。」と『子供の国』の担当者からも声をかけられた。



写真3 こどもの国すこやか遊びフェスティバル(2)

6 波及効果

統合時の平成9年と比較すると(表3)、部員数は、約8割に減少したものの、行事日数では、69%増、事業費では86%増と、活動としては、着実に拡大している状況にあり、特に魚食普及活動や清掃活動などは、それに係るイベントにとって欠くことのできない活動となっている。

表3 平成9年との比較

	平成9年	平成15年	15年/9年
			(%)
部員数	175	134	77%
年間行事日数	13	22	169%
事業費	1,668,006	3,101,076	186%

また、魚食普及活動を実施している現場では、イベント参加者などからの手ごたえは感じているものの、魚食普及の進展や魚価の向上、漁家経営の向上といった具体的な効果については評価できていない。

7 今後の課題や計画の問題点

今後の課題としては、現在検討を進めているところであるが、漁家の所得を増大できるような経済事業を実施したいと考えている。

当女性部としても、これまで「くろしお海草」の製造・販売、シイラのフライ素材の製造・販売、カワハギの珍味づくりなどに取り組んできたが、製造場所や保管場所の確保がむずかしく、「くろしお海草」以外は、事業化に至っていない。



写真4 くろしお海草

その「くろしお海草」も時期が限られ、年間を通じての女性部の経済事業とならないところが悩みの種となっている。

これまで取り組んだシイラやカワハギを始めとして、地元の市場の買受人が、積極的に買わないような付加価値の低い魚などを簡易加工し販売することは、就労意欲のある女性部員に働く場を提供し、また、市場水産物の付加価値向上も期待できるなど、漁家の女性にとっても非常に魅力ある事業であり、是非とも事業化したいと考えているところである。



写真5 かわはぎの珍味試作

これまで、当女性部の中で事業化について検討してきたところであるが、その結果、

- 生産施設、設備の確保
- 事業資金（施設・設備及び運転資金）の確保
- 販売先の確保
- 事業に携わる人の確保・養成

などが、解決すべき課題としてあげられており、当女性部単独では、解決がむずかしい課題が多い。

しかしながら、漁家所得の向上、漁家女性の社会参画の実現など、経済事業の実施は、今後の女性部活動にとって最も重要な課題であり、漁業協同組合や、県、市などの支援・協力も得ながら、事業の実施に向け、努力していきたいと考えている。